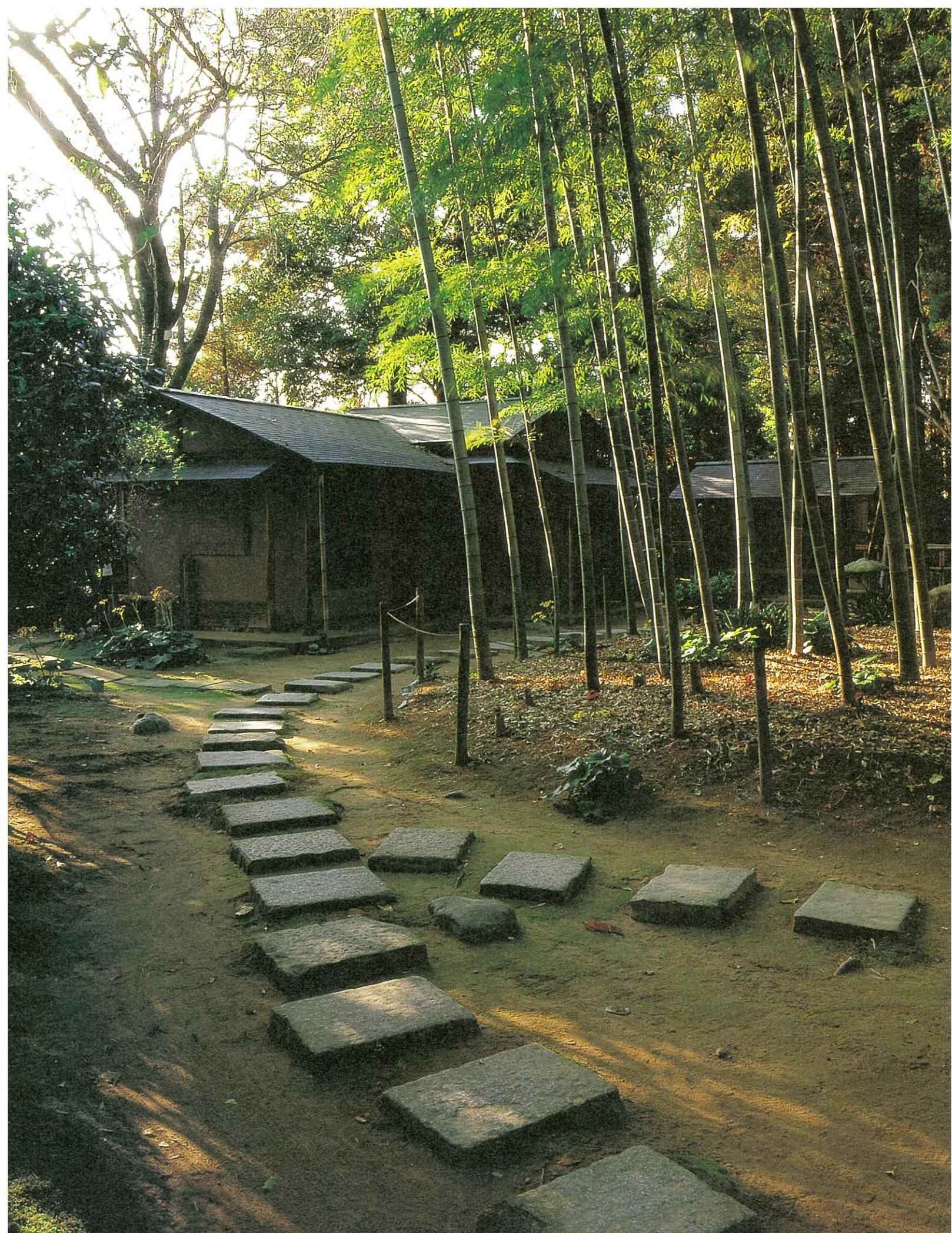


主屋正面の切妻屋根を受けて、その背後に続く書院・書院茶室の増築部の屋根も美しい切妻屋根になっている。その意匠は木組みにも変化を付けて奥行きを出している。庭園との調和もすばらしい。





美しい切妻屋根と玄関(式台)部の入母屋  
屋根の調和が絶妙である。入母屋には緩  
やかな反りを付けて、直線的な構造美を  
表現する切妻屋根と組み合わせている。  
妻梁と小屋束、白壁の意匠が印象的。





大正 12 (1923) に増築された桜香の間。  
この部屋は夫妻の居室として建てられた  
もので、縁側は下屋の外側にガラス戸を  
立て込むなど、時代の新しさが感じられ  
る。軒桁は珍しい八角形である。